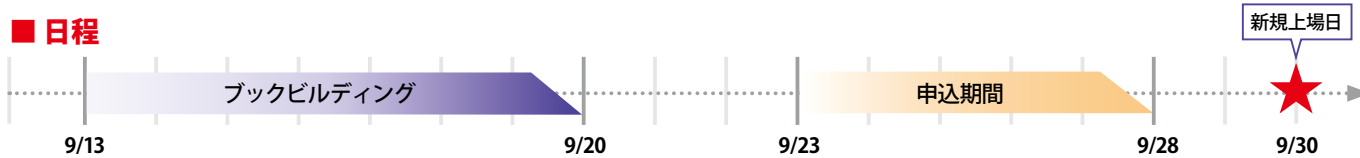


IPO銘柄 G-FACTORY (3474・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
3474	100 株	公募: 15.00 万株 売出: 6.90 万株 (OA3.28 万株)	3,080 円 ~ 3,240 円 (14.2 倍)	SMBC 日興証券



飲食店などを対象に経営サポート事業を展開

■ 事業内容

飲食店など店舗型サービスを手掛ける企業を対象とした経営サポート事業が主力。経営サポートでは、物件情報サポートとして、退店希望顧客に代わって賃貸借契約の解除と同時に同社が新規に賃貸契約を行い、内装造作や設備を購入。別の出店希望顧客に販売し、店舗物件のサブリース契約を結ぶ。このほか、内装設備サポートとしてリースサポート、内装設備サポートとしてGFリース、出退店に伴う費用を同社が負担するまるとサポートのe店舗まるとサポートなどがある。飲食事業では鰻料理の「名代 宇奈とと」を全国に14店運営する。16年12月期第2四半期累計(16年1~6月)実績の売上高構成比は経営サポート事業が65.6%、飲食事業が34.4%。

■ 特徴

顧客が出退店を行う際に必要となる店舗物件・内装設備の導入における課題のサポートを行っているが、顧客に対して生産性の低い店舗から早期撤退し、維持費用や人材を成長可能性の高い店舗への投資にシフトさせることを促す、コンサルティング的な業務も行っている。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年12月期の連結経常利益は前期比48.5%増の4億700万円を計画する。チェーン店舗の店舗網拡大や個人独立開業者の出店意欲増大でサブリースの需要は拡大。堅実な成長が期待できそうだ。シンガポールなど海外ビジネスの拡大も期待材料となる。

■ 定性分析

飲食店を中心とした経営サポートを行い、ビジネスモデルには新鮮味はある。既上場類似企業に加え、前日9月29日に上場を予定するシンクロ・フード(3963)が似たタイプのビジネスを手掛けており、シンクロ・フードの初値動向が一応の参考にはなりそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は8億円程度。軽量感はあるが、上位株主にベンチャーキャピタル保有株が目立つ。公開価格の1.5倍水準までのロックアップ条項が付されているものの圧迫感は強く、需給主導の展開とはなりづらそうだ。(小泉健太)

■ 類似企業

G-FACTORY(3474・マザーズ)	予想PER14.2倍 (仮条件上限)
テンポスバスターズ(2751・JASDAQ)	予想PER18.6倍
アルファクス・フード・システム(3814・JASDAQ)	予想PER15.1倍

■ 引受証券

SMBC 日興証券、いちよし証券、岩井コスモ証券、エース証券、SBI 証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年12月期(実績)	1,594	18.3	156	77.4	93	79.6	84.5	0.0
15年12月期(実績)	2,099	—	274	—	179	—	159.8	0.0
16年12月期(会社予想)	2,667	27.1	407	48.5	263	46.9	227.7	0.0

※ 15年12月期から連結決算。

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年12月期	1,120,000	1,459	481	100	430.2	33.0	21.6
15年12月期	1,120,000	2,136	657	100	587.1	30.8	31.4

大株主上位（上場前）

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	片平 雅之	909,000	76.14
2	SMBCベンチャーキャピタル1号投資 事業有限責任組合	60,000	5.03
2	DBJキャピタル投資事業有限責任組 合	60,000	5.03
4	阪和興業	40,000	3.35
5	田口 由香子	21,200	1.78
6	三菱UFJキャピタル3号投資事業有限 責任組合	20,000	1.68
7	鎌仲 順子	13,500	1.13
8	リコーリース	10,000	0.84
9	山崎 俊也	6,500	0.54
9	鈴木 雅之	6,500	0.54

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	片平 雅之
取締役 管理部長	田口 由香子
取締役 コンサルティング事業部長	山崎 俊也
取締役 業務推進事業部長	鈴木 雅之
取締役	野澤 正平
監査役(常勤)	鎌仲 順子
監査役	安田 正利
監査役	綾部 薫平

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。